

リーディングDXスクール事業【実践事例一覧】

江田島市立大古小学校（広島県）

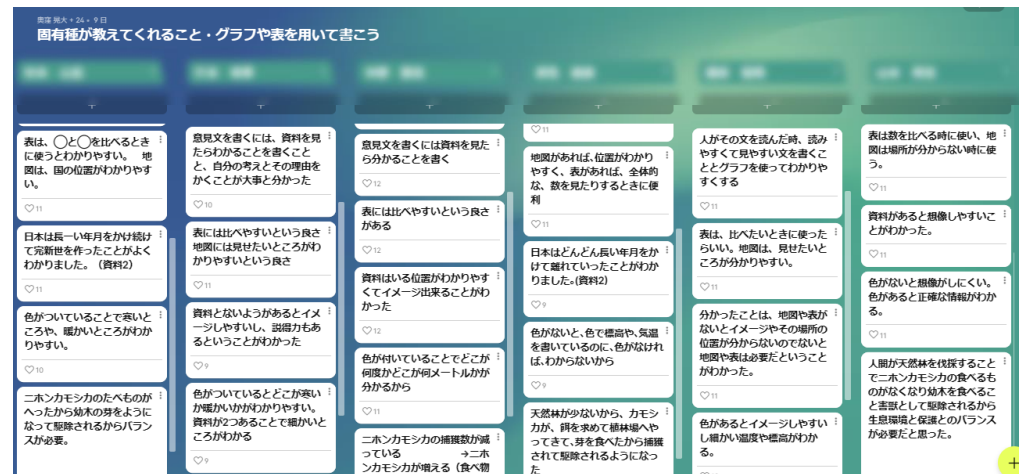
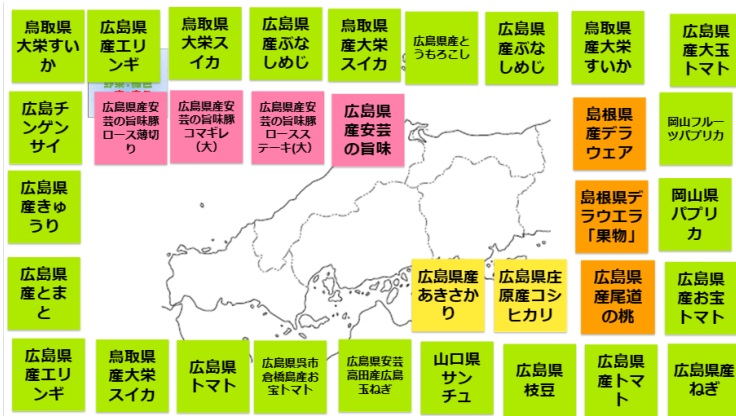
取組内容	実践事例の概要	様式
①	「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実 ・それぞれの意見をタブレットに書き込み、それを活用し交流する。	B-1
②	「端末の日常的な持ち帰りによる家庭学習の充実」 ・児童が家庭で個別の学習をしたり、自主的な学習で活用しやすくしたりする。	B-2
③	「対話的・協働的な職員会議・職員研修」 ・職員同士が連携を密に行ったり、ペーパーレス会議を行ったりする。	B-3
⑤	「児童と創るタブレットのルールづくり」 ・レベルアップ型ルールを児童とともに作成し、活用し、自律的な活用をめざす。	B-4

【取組内容①】「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

- ・タブレット上でシンキングツールを使い自分の考えを整理した後に、共有の機能を使ってそれぞれの意見を交流する。



- ・「ジャムボード」やオンライン掲示板を活用し、学習交流の場としたり、ポートフォリオとして使ったりする。



リーディングDXスクール事業【実践事例】

江田島市立大古小学校（広島県）

【取組内容②】 端末の日常的な持ち帰りによる家庭学習の充実

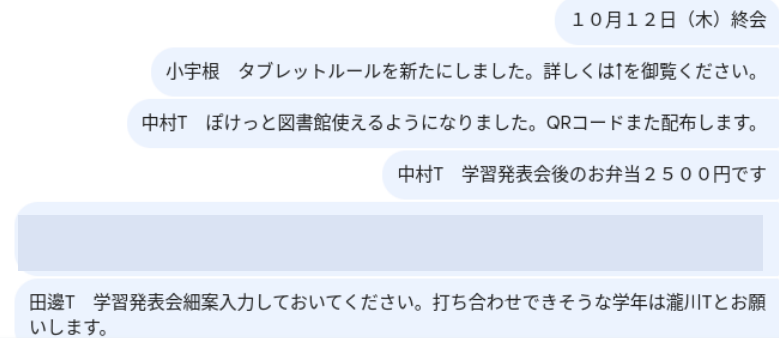
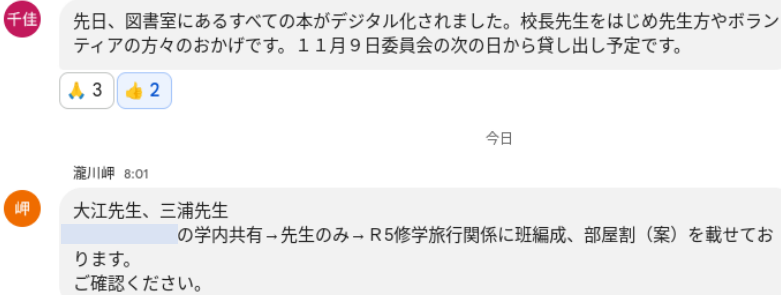
- ・タブレット端末上で音読の宿題を送る。
- ・デジタル教科書を活用し、英語のリスニングを家で行う。

- ・「クラスルーム」に様々なアプリのリンクを添付し、家でもドリル学習を行う。



【取組内容③】 対話的・協働的な職員会議・職員研修

・「Googleチャット」を使って職員間で連携を取る。具体的に伝えたいことがある場合は週末の終会で直接話す。会のある特定の曜日だけでなく、いつでも連携を図ることができるようになった。



・「Googleドライブ」等を使って、資料のデータを共有し、ペーパーレスの会議やアンケートを行う。



同じアンケートを使って、各学年ごとにアンケート結果をまとめることができる。

【取組内容⑤】 児童と創るタブレットのルールづくり～さとえ学園小学校を参考にして～

・夏季休業中に埼玉県のさとえ学園小学校の先生を招いて研修を行った。さとえ学園が行っているタブレットルールを参考に、レベルアップ型ルールを実施している。

レベルアップのために
できるようになってほしいこと

<レベルアップの条件>

- 1 タブレットを大事にしよう！
(忘れない。充電してくる。両手で持つ。地面に置かない。)
- 2 きまりを守った使い方をしよう！
(ルールを守る。学習に関係のあることで使う。先生の指導に従う。)
- 3 タイピングが上手になろう！
(1分間に60～120文字打てるようになる。)
- 4 タブレットの機能を使いこなそう！
(ショートカットキー、ロイロノート、グーグルスライド、ジャムボードなど)
- 5 ルールやマナーを守って正しくインターネットを使おう！
(著作権や言葉遣いを守る。素早く適切に調べることができる。)
- 6 家でもルールを守った使い方をしよう！
(時間を決めて使う。寝る前は30分のメディア遮断をする。)
- 7 他の友だちの「良い使い方」を見つけよう！
(「良い使い方」をしている友達を見つけたら先生に報告しよう。)

- ※ レベルアップは先生の判断や他の児童の推薦によって決められます。
- ※ 残念ですが、先生たちの判断でレベルダウンを言い渡すことがあります。いつもこれらの7つの条件を意識してタブレットを使おう。

レベルアップの条件を提示し、大半の条件を満たしたと判断された場合はブルー。すべての条件を満たしたと判断された場合はゴールドにレベルアップする。

レベルアップした場合、学校内でタブレットを扱う自由度が変わるため、児童はタブレットのルールを守りながら技能を身につけている。
→自律につながる。

めざせ ゴールド！
大古式レベルアップ タブレットルール

